

コープふくしま大震災対策ニュース

【がんばっぺ編 7】

2011年3月30日発行

対策本部にて取材中の
ライター筑波作成

1 被害を受けた組合員さん宅のがれきの撤去作業



福島市内は、全壊や半壊などの大きな被害を受けた住宅は少ないものの、市内のあちこちで瓦が落ち、屋根にブルーシートが被されていたり、塀が崩れていたりといった住宅が目立ちます。コープふくしま住宅部では、組合員さんの被災状況の確認を進めていますが、その様子取材しました。

今日の作業は、崩れた塀などがれきの撤去。

3月31日までなら福島市が無料で産業廃棄物を引き取ってくれることから、3月中に主立ったがれきを撤去し、修繕が必要な組合員さんの経済的な負担を少しでも減らしてあげたいとのことでした。作業にはさいたまコープからの支援スタッフ2人も参加していました。こちらのお宅は塀や玄関の外灯などが崩れていました。高齢のご夫婦のお2人暮らしで、震災後はデイサービスに通う老人介護施設で3日間、避難生活されていたとのこと。

家に戻ってきたものの、何から手をつけていいかと途方にくれていたそうです。そういった中で重いがれきを撤去してくれるのは本当に助かるとのことでした。がれきを片付けていく様子をこの家のご主人が、ただ、ただ黙って見つめていた姿が印象的でした。



2 笹谷店から避難所へ支援物資の寄付

コープふくしま笹谷店から、福島市内の避難所へ支援物資、水、ジュース、即席みそ汁、ウエットティッシュ、生理用品などが寄付されました。福島市内にある避難所には津波の被害が大きかった浜通り地区（いわき市や相馬市、南相馬市など）から避難している人が多いそうです。必要な物ばかりなのでありがたいと喜ばれました。

物資の運搬を担当したのは、コープおおいたから支援にきている小野雄三さん。配送トラック2台に4名のスタッフで福島に入っています。

門司港からフェリーで2日かけ東京に、その後、東北自動車道を通って福島市に到着したそうです。

「何か東北のために貢献できれば」と自ら手をあげて支援に参加したと話してくれました。

全国の生協からの人的支援の輪は、様々な形で、福島への復興の大きな力となっています。



3 店頭販売でがんばる笹谷店



福島市内でも被害の大きかった笹谷店。震災の際に、天井が半分落ちてくるという大きな被害を受け、復旧工事が急ピッチで進んでいます。販売は、震災直後から店頭で行っています。野菜や魚などの生鮮食品をはじめ、牛乳や納豆、パン類、日用雑貨など様々な商品が整然と並び、スタッフも慣れた手さばきで電卓をたたき、精算を行っていました。

「当初は、試行錯誤でしたが、今では、皆、慣れたもの。私が指示を出さなくても、あっという間に陳列が終わり、心強いですよ」と、店長の大橋一徳さん。

復旧までには1ヶ月半程度必要とのことですが、4月1日からはレジも再開される予定です。

4 南相馬市へコープふくしまから義援金



コープふくしまでは、4月2日に道の駅 南相馬で「負けないぞ!!南相馬市」を開催する予定です。

それに先立ち、コープふくしま野中俊吉専務理事、加藤周専務理事補佐、日本生協連照井総合マネジメント室長の3人が、南相馬市桜井勝延市長を訪問し、コープふくしまからの義援金を渡しました。

南相馬市は福島第一原発の20kmから30km圏内に位置し、25日には自主避難地区とされています。

地震、津波、原発に加え、スーパーなどが営業を停止したため買い物ができない上に、ガソリン不足で買い物にも行けないことで、食料品をはじめ、物資不足は深刻です。

コープふくしまでは、市の要請を受け、市内に残る南相馬市の皆さんを支援し、日常の必需品を提供するために、「負けないぞ!!南相馬市」の開催をすることとなりました。

桜井市長は、コープふくしまの決定を感謝し、

「国が最終的にどういう判断をするかはともかく、ここに暮らす人が元気になるような策を取っていかねばなりません。最悪のシナリオがあるとしても、小康状態にある間は、南相馬市としては、最大限の支援していかねばならないと思っています」

と、元気に語ってくれました。(この項のみ、日本生協連照井総合マネジメント室長が取材・撮影)